

中部圏の暮らし

社団法人中部開発センター

企画事業部 研究員 眞鍋 理

はじめに

「人はパンのみで生きるにあらず」。— 有名な新約聖書のマタイ福音書の一節であり、ご存じの方も多いだろう。人々が生活を送るうえで重要なのは経済的な豊かさだけではないという意味である。では、あなたが暮らしのポイントとしているのはどういったことだろうか。広くて安い家、通勤や通学が楽、教育環境の良さ、生活の利便性の高さ、安全や安心など、人それぞれいろいろなポイントがあるはずだ。

ここでは、様々な暮らしのポイントからアンケート調査や統計を通して中部圏の暮らしを採点してみたい。

なお、本調査における調査区分は、特別な脚注がない限り以下のとおりとする。

I 中部圏の暮らしの通信簿 ～アンケート結果からみた 中部圏の暮らし

中部開発センターでは、暮らしの満足度や将来暮らしてみたい地域といった暮らしに対する人々の意向を探るために、インターネットを利用したアンケートを実施した（2003年5月29日～6月29日、有効回答者数^{注1}：9,013人）。

1. 中部圏の暮らしの通信簿 ～住めば都、でも遊びには少し不 満

ここでは、利便性や安全・安心など暮らしに関する様々な項目について、自らが暮らす地域の満足度を5段階（満足度が高い順に5、4、3、2、1）で採点してもらった。

注1：有効回答者数は9,013人であるが、設問によっては未回答者もみられたため、各設問の合計は一致しない。

地域区分	範 囲
中 部 圏	富山県・石川県・福井県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・滋賀県
東 海	岐阜県・静岡県・愛知県・三重県
北 陸	富山県・石川県・福井県
首 都 圏	茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県
近 畿 圏	福井県・三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県

表1 中部圏の暮らしの通信簿（5段階評価）

項 目		中部圏		全国	首都圏	近畿圏	
		東海	北陸				
暮らしを取り巻く環境	住環境の良さ（静けさ、街並みなど）	3.49	3.49	3.52	3.48	3.47	3.49
	緑の多さや自然の豊かさ	3.64	3.64	3.64	3.64	3.66	3.67
	教育環境の良さ	3.13	3.13	3.07	3.11	3.09	3.13
	高等学校や専門学校、大学など進学できる教育機関の選択肢の多さ	2.88	2.87	2.97	2.88	2.85	2.89
	気候の良さ	3.29	3.29	3.22	3.27	3.26	3.25
	5項目平均	3.29	3.28	3.28	3.28	3.27	3.29
暮らしの利便性	通勤や通学の利便さ	3.33	3.33	3.30	3.31	3.26	3.29
	通勤や通学時の公共交通機関の混雑度	2.97	2.97	3.03	2.94	2.90	2.94
	バスや鉄道といった公共交通機関の充実度	2.92	2.92	2.91	2.89	2.84	2.88
	スーパーマーケット、コンビニなど日常の買い物の利便さ	3.59	3.58	3.61	3.58	3.54	3.58
	高速道路や新幹線など高速交通網へのアクセス	3.17	3.18	3.22	3.15	3.11	3.13
	5項目平均	3.20	3.19	3.21	3.17	3.13	3.16
楽しめる魅力	ショッピング（デパート、専門店など）の魅力	2.93	2.93	2.88	2.94	2.93	2.92
	テーマパークや遊園地など、遊べる施設の充実度	2.26	2.27	2.17	2.27	2.26	2.26
	公園やテニスコート、ゴルフ場など手軽にスポーツが楽しめる施設の近さ	2.79	2.80	2.68	2.78	2.76	2.77
	美術館や博物館、コンサートなど文化的な魅力に触れる機会の多さ	2.46	2.46	2.40	2.45	2.42	2.45
	最先端の流行や情報に触れる機会の多さ	2.36	2.36	2.32	2.37	2.34	2.39
	5項目平均	2.56	2.56	2.49	2.56	2.54	2.56
暮らしの安全・安心	救急病院や保健所など、保健・医療施設の充実度	3.27	3.26	3.37	3.24	3.20	3.24
	治安の良さ	3.27	3.28	3.25	3.26	3.24	3.23
	地震や台風など災害への対策	2.97	2.97	2.94	2.96	2.95	2.96
	子育てに関する地域の支援	2.89	2.90	2.80	2.89	2.87	2.91
	福祉やバリアフリーといった高齢者などへの支援	2.79	2.80	2.65	2.78	2.73	2.79
	5項目平均	3.04	3.04	3.00	3.03	3.00	3.03

まず、この“暮らしの通信簿”の特徴は、地域による格差がほとんどみられないことである【表1参照】。これは、暮らしの満足度という点では中部圏とその他の地域にほとんど差がないことを示している。本来、自然環境が豊かとはいえない大都市圏とその他の地域でも大きな格差はみられず、また、利便性や楽しめる魅力に乏しいと思われがちな地方と大都市圏の格差もそれほど大きいものとはいえない。暮らしの満足度については“住めば都”ということわざが示すとおり、どんな地域であっても住み慣れればそれほど不満を感じないということなのだろう。

一方、どの地域でも同様な傾向がみられるものの、中部圏について各項目ごとに見ると、暮らしを取り巻く環境に関する項目が最も高く、特に自然の豊かさについては満足度が高い。次いで、暮らしの利便性に関する項目が高く、特に日常の買い物の便利さについての満足度が高い。最も満足度が低かったのが楽しめる魅力である。特に、テーマパークや遊園地など遊べる魅力の満足度が低く、余暇やレジャーといった“遊び”の要素に物足りなさを感じていることがわかった。

2. 将来暮らしてみたい都道府県 ～中部圏では静岡が人気

ここでは、将来暮らしてみたい都道府県として、今住んでいる人にどれだけ人気があるか（在住者の支持率）と、県外の人にどれだけ人気があるか（非在住者の支持率）という

点から各都道府県の人気を比較した。

在住者、非在住者ともに高い支持を得たのは沖縄県と北海道である【グラフ1参照】。この2県を選んだ理由として「魅力的な自然環境があるから」、「時間的な余裕や精神的な余裕がもてそうだから」が高く【表2参照】、魅力的な観光地・リゾートのイメージが高い支持につながったとみられる。

また、在住者では兵庫県や宮城県、非在住者では東京都や神奈川県が人気が高い。宮城では北海道・沖縄と同様に魅力的な自然環境を選んだ理由に挙げる声が強かった。東京や神奈川、兵庫は「文化・情報・流行に触れる機会が多いから」が多く、洗練された都会の魅力の高さが人気につながったとみられる。

一方、中部圏の各県をみると、在住者・非在住者ともに高い支持を得たのは静岡県である。長野県は非在住者から、富山県は在住者から比較的高い支持があった。その他、愛知県はそれなりの支持を得たが、他の県はそれほど人気がないことがわかった。

なお、静岡・長野・富山の各県を選んだ理由をみると「魅力的な自然環境があるから」、「時間的な余裕や精神的な余裕がもてそうだから」、「広い家に住めそうだから」といった項目を挙げた人が多い。ゆとりを持った生活ができそうなイメージが比較的高い支持につながったとみられる。

グラフ1 都道府県別の在住者・非在住者の支持率

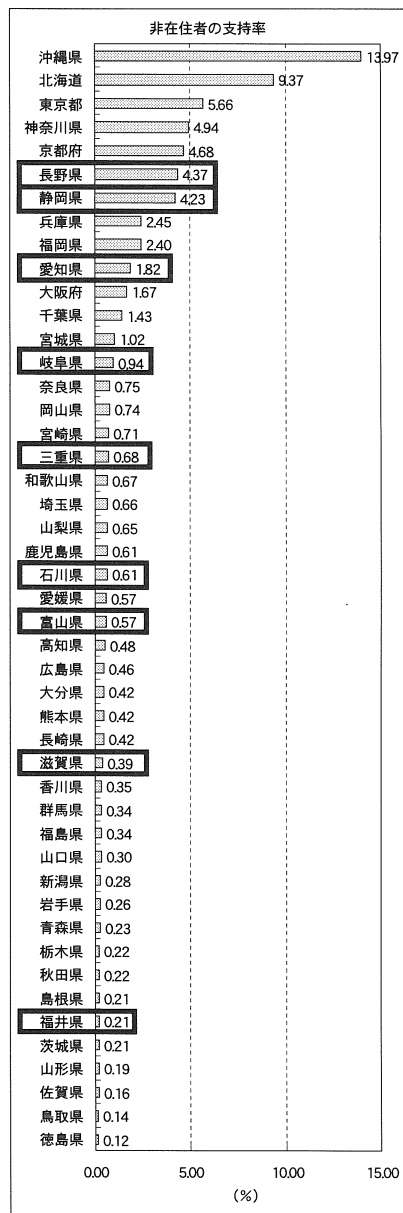
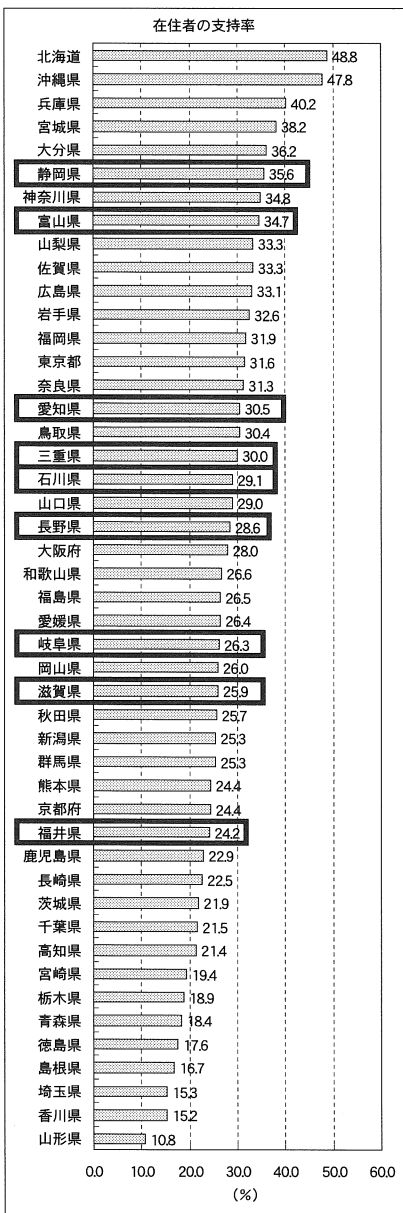


表2 将来暮らしてみたい地域を選んだ理由
 (在住者・非在住者支持率上位5位地域の都道府県と中部圏)

都道府県	理由の第1位	理由の第2位	理由の第3位	
在住者・非在住者の支持率上位5地域	北海道	魅力的な自然環境があるから (88.3%)	時間的な余裕や精神的な余裕がもてそうだから (49.9%)	広い家に住めそうだから (46.0%)
	宮城県	魅力的な自然環境があるから (63.8%)	文化、情報、流行に触れる機会が多いから (34.1%)	実家があるから (ふるさとだから) (33.3%)
	東京都	文化、情報、流行に触れる機会が多いから (69.0%)	遊ぶ場所が多いから (46.3%)	通勤・通学が楽そうだから (40.5%)
	神奈川県	文化、情報、流行に触れる機会が多いから (57.0%)	魅力的な自然環境があるから (39.9%)	遊ぶ場所が多いから (37.5%)
	京都府	文化、情報、流行に触れる機会が多いから (74.4%)	魅力的な自然環境があるから (49.2%)	時間的な余裕や精神的な余裕がもてそうだから (38.4%)
	兵庫県	文化、情報、流行に触れる機会が多いから (43.7%)	魅力的な自然環境があるから (42.1%)	実家があるから (ふるさとだから) (41.0%)
	大分県	魅力的な自然環境があるから (70.9%)	実家があるから (ふるさとだから) (56.4%)	時間的な余裕や精神的な余裕がもてそうだから (47.3%)
	沖縄県	魅力的な自然環境があるから (91.5%)	時間的な余裕や精神的な余裕がもてそうだから (63.8%)	広い家に住めそうだから (19.4%)
中部圏	富山県	魅力的な自然環境があるから (72.1%)	広い家に住めそうだから (45.6%)	実家があるから (ふるさとだから) (39.7%)
	石川県	魅力的な自然環境があるから (48.1%)	実家があるから (ふるさとだから) (48.1%)	文化、情報、流行に触れる機会が多いから (29.9%)
	福井県	魅力的な自然環境があるから (63.0%)	実家があるから (ふるさとだから) (37.0%)	広い家に住めそうだから (29.6%)
	長野県	魅力的な自然環境があるから (91.0%)	時間的な余裕や精神的な余裕がもてそうだから (52.4%)	広い家に住めそうだから (30.9%)
	岐阜県	魅力的な自然環境があるから (61.5%)	実家があるから (ふるさとだから) (50.9%)	広い家に住めそうだから (30.9%)
				時間的な余裕や精神的な余裕がもてそうだから (30.9%)
	静岡県	魅力的な自然環境があるから (72.5%)	時間的な余裕や精神的な余裕がもてそうだから (36.6%)	実家があるから (ふるさとだから) (31.4%)
	愛知県	実家があるから (ふるさとだから) (69.3%)	通勤・通学が楽そうだから (22.3%)	文化、情報、流行に触れる機会が多いから (20.0%)
	三重県	魅力的な自然環境があるから (65.4%)	実家があるから (ふるさとだから) (56.2%)	時間的な余裕や精神的な余裕がもてそうだから (35.3%)
	滋賀県	魅力的な自然環境があるから (71.9%)	広い家に住めそうだから (47.4%)	時間的な余裕や精神的な余裕がもてそうだから (31.6%)

3. 暮らしをより良くするために必要な施策

～利便性の向上や安全・安心対策の充実を望む声強い

ここでは、今住んでいる地域の暮らしをより良くするために必要なことは何かを3つ選んで回答してもらった。

中部圏で最も高いのは公共交通機関の充実である【グラフ2参照】。首都圏や近畿圏と比べても高く、特に北陸では顕著である。自動車の普及率が高い中部圏は移動手段が車中心の社会となっており、公共交通機関の充実を望む声が高くなっているとみられる。

一方、東海では医療・福祉サービスの充実や災害への対策といった暮らしの安全・安心に関する項目が他の地域よりも高いのが目立つ。特に東海地域では、大規模な被害が想定されている東海地震の発生が危惧されており、安全・安心への対策を求める声が強くなっているとみられる。

また、北陸ではショッピングセンターやレジャーの魅力向上が他地域に比べ圧倒的に高い。楽しめる、遊べるといった都会的な魅力の向上が望まれているということであろう。

II 中部圏の暮らしの特徴

アンケート調査では地域によって暮らしの満足度には差がなく、“住めば都”という意識の強さが目立つ結果となった。では、本当に地域によって実態に差はないのだろうか。ここでは「住む」、「貯める」、「買う」、「遊ぶ」、「安全・安心」といった暮らしの5項目から中部圏の暮らしの現状を検証してみたい。

1. 中部圏の「住む」 ～「安・近・広」プラス日当たり良好

欧米などの住宅事情と比較すると、わが国の住宅はよく“ウサギ小屋”と揶揄されるように、「高い・遠い・狭い」というのが一般的な認識となっている。ここでは、住宅の広さや価格、通勤時間の長さ、日当たりの良さなどから中部圏の住宅事情をみてみよう。

まず、住宅の広さ・価格をみると中部圏は首都圏や近畿圏に比べ、広くて安い【表3参照】。広さについてはヨーロッパ諸国と比較しても遜色なく、いわゆる“ウサギ小屋”と呼ばれる住宅の狭さとは無縁である。

一方、通勤時間の長さについても30分以内の世帯が過半数を占めており、首都圏や近畿圏と比べると通勤時間の短い世帯の割合が高い【グラフ3参照】。

グラフ2 暮らしをより良くするために必要な施策

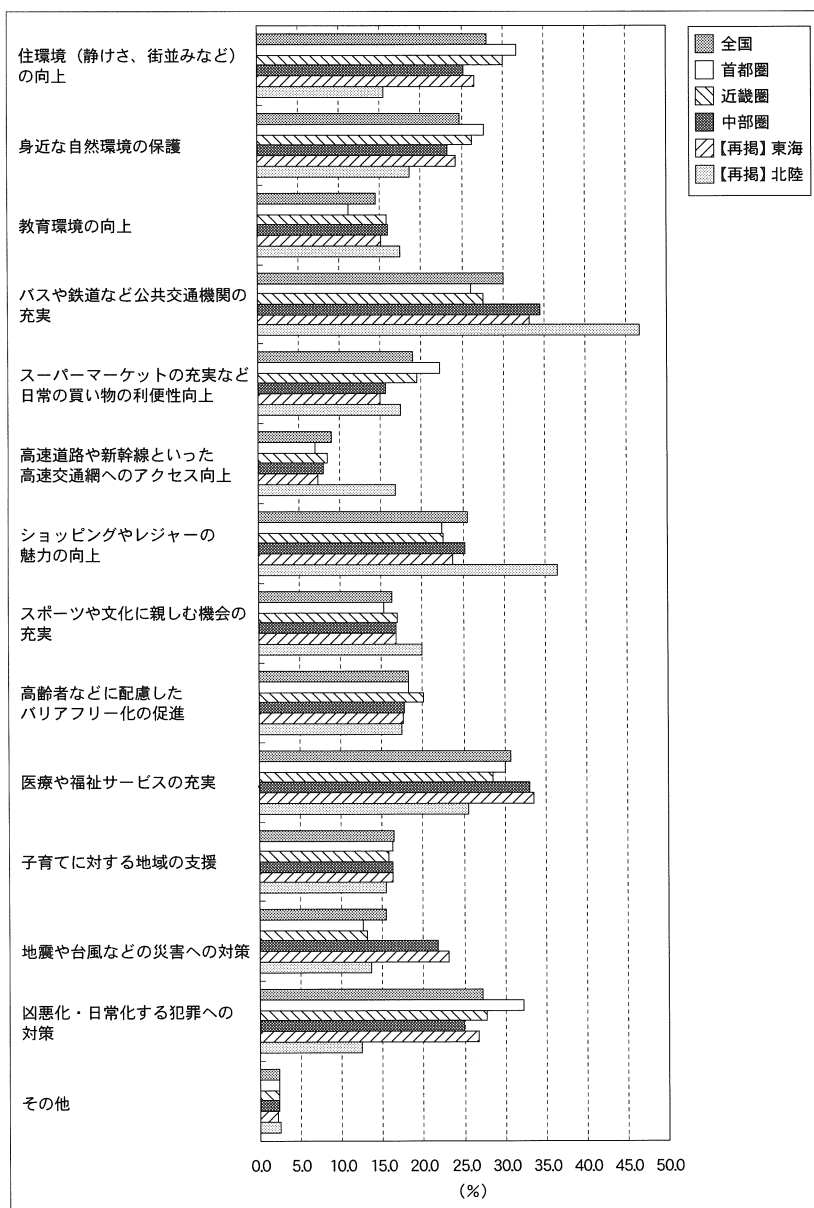
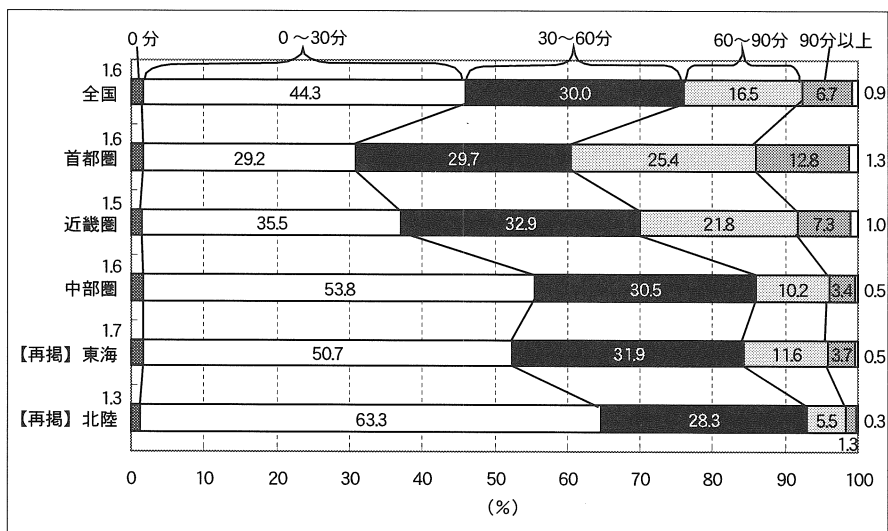


表3 住宅の面積・家賃・購入価格の比較^{注2}

	1世帯あたり延べ面積 (㎡) (2000年)	1畳あたりの家賃(円) (1998年)	1㎡あたりの建売住宅 の購入価格(万円) (2001年)
全国	91.3	2,874	22.0
首都圏	78.6	3,908	29.3
近畿圏	87.9	2,958	25.0
中部圏	108.6	2,362	18.4
東海 (再掲)	100.4	—	19.3
北陸 (再掲)	136.2	—	15.6
【参考】アメリカ (1999年)	151	—	—
【参考】イギリス (1996年)	84	—	—
【参考】ドイツ (1998年)	92	—	—
【参考】フランス (1996年)	97	—	—

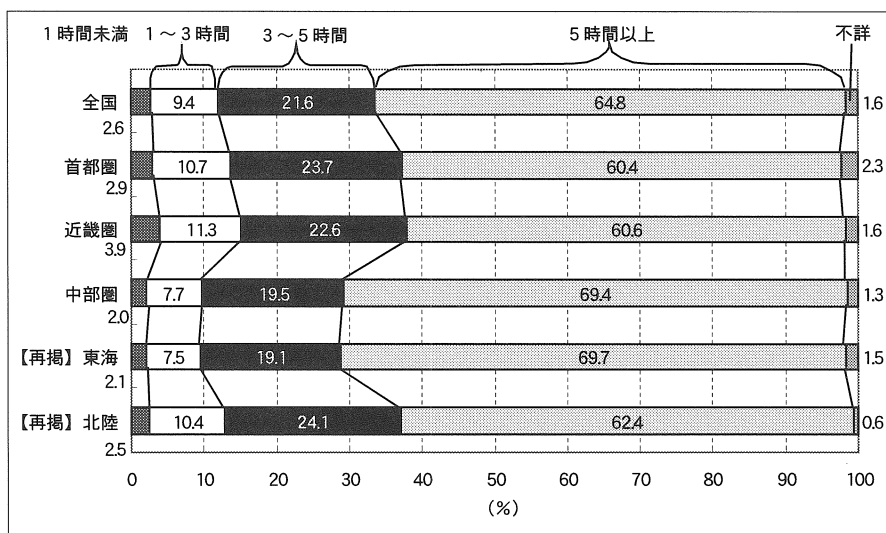
資料) 総務省統計局「住宅・土地統計調査」、住宅金融公庫「平成13年度公庫融資利用者調査報告」、住宅産業新聞社「住宅経済データ集」

注2: 海外の1世帯あたり延べ面積について、ここでは1戸あたりの床面積の数値を用いた。なお、アメリカの床面積は中央値であり、戸建て及びモービルホームを対象とする。

グラフ3 通勤時間帯別の世帯数の割合 (1998年) ^{注3}

資料) 総務省統計局「住宅・土地統計調査」

グラフ4 1日の日照時間帯別の住宅の割合（1998年）



資料) 総務省統計局「住宅・土地統計調査」

注3：「0分」とは、自宅又は住み込みで働いている場合、農家や漁家の人が自家の田畑・山林や漁船で仕事をしている場合、自営の大工、左官、行商に従事している人などが自宅を離れて仕事をしている場合、雇われて船に乗り込んでいる場合など。

また、住宅密集地が少ないため、住宅に日が当たる1日の平均時間は首都圏や近畿圏に比べ長く【グラフ4参照】、日当たりについても中部圏は良好な環境にあるといえる。

以上のように、アンケートの満足度ではほとんど差がみられなかったが、中部圏の住宅は首都圏や近畿圏のような、いわゆる「高い・遠い・狭い」ではなく、「安い・近い・広い」に加えて「日当たり良好」が実現しており、快適な住環境にあるといえよう。

2. 中部圏の「貯める」 ～共働きでガッチリ貯蓄

ここでは、失業率や家計における収入・支出から、中部圏の暮らし向きをみてみよう。

まず、完全失業率をみると中部圏は首都圏や近畿圏を大きく下回っており、有効求人倍率は高い【表4参照】。好調な自動車産業に支えられて中部圏の景気は底堅く推移しているためだ。

この地域の1世帯あたりの収入も高い。これは共働きの比率が高い（1世帯当たりの有

業人員が多い) ことも寄与しているとみられる。特に北陸では1世帯あたり1.94人が働いており、全国平均を大きく上回っている。この結果、1世帯あたりの貯蓄現在高も高い。一方、住宅価格が比較的安いために住宅ローンの負担も軽い。このため、貯蓄額から負債額をひいた純貯蓄額は関東や近畿をはるかに上回っており、この地域の経済的な豊かさを示している【表5参照】。

中部圏は収入の豊かさと暮らしのゆとりが両立する珍しい地域といえよう。

3. 中部圏の「買う」 ～車で郊外S. C. まで買い物に いくのが中部圏流?

住む場所を決めるにあたっては、住まいの広さや価格もさることながらスーパーが近く

表4 完全失業率と有効求人倍率(2000年)

項目	全国	首都圏	近畿圏	中部圏		
				東海(再掲)	北陸(再掲)	
完全失業率	4.7	4.6	5.6	3.7	3.9	3.4
有効求人倍率	0.49	0.53	0.40	0.68	0.65	0.66

資料) 総務省統計局「国勢調査」、厚生労働省「職業安定業務統計」

表5 地域別1世帯あたりの1ヶ月間の実収入額・可処分所得と貯蓄・負債額^{注4}
(2人以上の一般世帯でかつ勤労者世帯、1999年)

項目	全国	関東	近畿	北陸	東海
有業人員(人)	1.69	1.68	1.61	1.94	1.79
実収入(円)	545,856	573,464	527,291	598,826	571,865
貯蓄現在高(千円)	11,912	12,993	11,821	13,745	13,586
負債現在高(千円)	6,086	6,963	6,777	4,949	5,552
うち住宅・土地のための負債(千円)	5,588	6,334	6,530	4,450	5,072
純貯蓄額〔貯蓄現在高-負債現在高〕(千円)	5,826	6,030	5,044	8,796	8,034

資料) 総務省統計局「全国消費実態調査」

注4: ここでの地域区分は、「関東」が茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・長野の各都県、「北陸」が新潟・富山・石川・福井の各県、「東海」が岐阜・静岡・愛知・三重の各県、「近畿」が滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山の各府県を指す。

にあるなど、生活の利便性の高さも当然考慮すべきポイントである。ここでは、スーパーやコンビニエンスストアなどこの地域での買い物の便利さについてみた。

この地域の百貨店やスーパー、コンビニエンスストアは少なく、一見不便そうに見える

が【表6参照】、郊外型のショッピングセンターは圧倒的に多い【表7参照】。この地域の自動車の保有率の高さからみて【表8参照】、郊外型のショッピングセンターに車で出かけるのが中部圏流の買い物のスタイルといえよう。

表6 1人あたりの買い物施設数（全国平均を100としたとき）

項目	全国	首都圏	近畿圏	中部圏		
				東海(再掲)	北陸(再掲)	
百貨店店舗数(2000年)	100.0	100.2	94.4	85.1	90.6	68.1
スーパー店舗数(2000年)	100.0	96.9	111.2	96.7	86.0	75.7
コンビニエンスストア 事業所数(2002年)	100.0	112.7	79.4	96.4	95.8	101.8

資料) 経済産業省「商業販売統計」、総務省統計局「国勢調査」・「人口推計」

表7 人口100万人あたりのショッピングセンター数^{注5} (2001年)

立地区分	全国	関東・甲信越	近畿	中部
中心地域	5.7	5.2	6.5	6.2
周辺地域	4.6	4.3	6.5	4.6
郊外地域	10.2	7.5	10.5	19.7
小計	20.4	17.0	23.6	30.5

資料) (社)日本ショッピングセンター協会「SC現況報告書」

表 8 地域別 1 世帯あたりの自動車保有率^{注 6}
(2 人以上の一般世帯でかつ勤労者世帯、1999 年)

項 目	全国	関東	近畿	北陸	東海
自動車保有率 (%)	90.2	85.3	84.9	97.7	96.0

資料) 総務省統計局「全国消費実態調査」

注 5 : ここでの地域区分は、「関東・甲信越」が茨城・群馬・栃木・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨・新潟・長野・静岡の各都県、「中部」が富山・石川・岐阜・愛知・三重の各県、「近畿」が滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・福井の各府県である。また、立地区分は市町村の行政区画単位ごとに 3 つに区分しており、「中心地域」が当該市町村の中心市街地、「周辺地域」が中心地域・郊外地域以外の地域、「郊外地域」が当該市町村の郊外の住宅地・工業地・農地等を指す。

注 6 : ここでの地域区分は注 4 と同様である。

4. 中部圏の「遊ぶ」 ～ゴルフ、喫茶店などオヤジ系レ ジャーが人気?

アンケート結果では楽しめる魅力についての満足度が低かったが、この地域の余暇の実態はどのような状況にあるのだろうか。余暇関連施設数や余暇関連支出額から中部圏の実態をみてみよう。

1 人あたりの施設数をみると、中部圏はほとんどの施設が首都圏・近畿圏を上回っており、施設の数という点だけでみれば中部圏は首都圏・近畿圏よりも充実していることがわかった。【表 9 参照】。

特に、喫茶店数の多さは目立つ。東海地域の 1 世帯あたりの喫茶代への支出額は他の地域よりも圧倒的に高い【表 10 参照】。名古屋

近辺の喫茶店の多さは広く知られているところであるが、数字の上でもこの地域の喫茶店好きが裏付けられる結果となった。

その他、中部圏のレジャーの嗜好を施設利用率でみると、ゴルフ場やボーリング場の多さが目立つ【表 11 参照】。特にゴルフ場は施設数も多く、ゴルフ場へのアクセスも良いため、この地域でゴルフは人気のあるレジャーの一つといえる。一方、ディズニールランド等の大型のテーマパークが少ないためか、遊園地・テーマパークなどの利用者数は少なく、遊園地入場・乗物代への支出額も他地域を下回っている。【表 10 参照】。テニスコートの利用も少なく、今ひとつ人気がない。中部圏では若者向けのレジャーよりも、ゴルフや喫茶店といった年配の男性が好みそうなレジャーが受ける傾向にありそうだ。

表9 1人あたりの余暇関連施設数（全国平均を100としたとき）

項 目	全 国	首都圏	近畿圏	中 部 圏		
				東海(再掲)	北陸(再掲)	
ゴルフ場数 (2001年)	100.0	82.9	98.2	121.2	118.3	100.2
ゴルフ練習場数 (2001年)	100.0	93.9	77.9	119.0	115.4	107.7
テニスコート〔練習場を含む〕 (2001年)	100.0	143.7	96.4	95.0	102.4	57.2
ボウリング場数 (2001年)	100.0	85.6	96.1	102.8	98.4	126.7
映画館数 (2001年)	100.0	96.6	91.8	103.1	88.3	109.1
遊園地・テーマパーク数 (2001年)	100.0	78.1	102.7	112.4	93.8	131.6
パチンコ店数 (2001年)	100.0	95.0	99.4	104.7	106.2	88.5
ゲームセンター数 (2001年)	100.0	95.2	96.8	98.0	93.4	148.0
飲食店数 (2000年)	100.0	99.0	106.5	101.6	100.6	100.0
喫茶店数 (2000年)	100.0	91.9	104.8	130.6	129.6	134.2

資料) 経済産業省調査統計部「特定サービス産業実態調査報告書」、警察庁生活安全局「風俗営業等の現況と取締り状況」、厚生労働省「衛生行政業務報告」

表10 地域別1世帯あたりの1ヶ月間の余暇関連支出額（抜粋）^{注7}
（2人以上の一般世帯でかつ勤労者世帯、1999年）

項 目	全 国	関東	近畿	北陸	東海
喫 茶 代 (円)	426	468	498	299	712
映画・演劇・文化施設等入場料 (円)	696	822	711	639	751
スポーツ施設使用料 (円)	1,268	1,623	1,183	1,228	1,490
遊園地入場・乗物代 (円)	178	271	172	130	163

資料) 総務省統計局「全国消費実態調査」

注7：ここでの地域区分は注4と同様である。

表11 余暇関連施設の利用者率^{注8}（単位：％、2001年）

項目	全国	首都圏	近畿圏	中部圏	
				東海(再掲)	北陸(再掲)
ゴルフ場	60.5	54.8	64.8	76.6	60.5
テニスコート（練習場を含む）	6.3	8.0	9.6	4.1	4.0
ボウリング場	67.9	61.9	72.1	76.2	82.8
映画館	105.5	126.5	108.6	102.2	125.7
遊園地・テーマパーク	85.5	103.5	114.9	62.9	13.8

資料）経済産業省調査統計部「特定サービス産業実態調査報告書」

5. 中部圏の「安全・安心」 ～地震対策、福祉対策は不十分か

1995年1月7日に発生した兵庫県南部地震（M7.3）は、死者6,430名、負傷者43,773名という大きな被害をもたらした。経済的な被害は直接被害だけで約10兆円と推計されている。阪神・淡路大震災と呼ばれるこの地震がもたらした被害は記憶に新しいが、中部圏においても東海地震や東南海・南海地震の発生が懸念されており、その被害は阪神・淡路大震災を上回る規模が想定されている【コラム参照】。こういった状況からみても中部圏における災害への備えは喫緊の課題であり、アンケート結果でも防災対策の充実を求める声

が高かった。住まいを決めるにあたっては、今や最も重要な要素かもしれない。

一方、少子高齢化が進展するなかで、高齢者対策についてもこれから一層重要性を増す要素の一つだ。2000年には高齢者や身体障害者等が公共交通機関を利用する際の利便性や安全性向上のため交通バリアフリー法^{注9}が制定され、駅やバスターミナル、鉄道車輛、バスなどのバリアフリー化が進展しつつある。ここでは、防災や医療、福祉といった地域の安全・安心に関する指標をみたい。

【コラム】東海地震と東南海・南海地震
駿河湾の海底にある駿河湾トラフを震源域として、近い将来大規模な（マグニ

注8：ここでは、人口に占める施設利用者数の割合を利用率とした。

注9：正式名称は「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」で、2000年11月15日に施行された。

チュード8程度)地震が発生すると考えられており、これが「東海地震」と呼ばれている。2003年の3月に政府の中央防災会議がまとめた東海地震の被害想定は、最悪の場合で死者約1万人、重傷者約15,000人、全壊建物約46万3,000棟にもものぼる。また、住宅や工場の損壊、生産停止による被害など直接被害、間接被害も含めた経済的な被害額は最悪の場合、約37兆円と想定されている。現在日本で唯一予知の可能性が高い地震とされているが、東海地震が発生すると広い範囲で大きな被害が生じることは疑いなく、国では「大規模地震特別措置法」は制定し防災対策の強化を図っている。

なお、現在大規模地震特別措置法によって指定された地震防災対策強化地域は、静岡県全域と東京、神奈川、山梨、長野、岐阜、愛知、三重の各都県にまたがる263市町村である。

一方、東南海・南海地震も、足摺岬沖から潮岬沖(南海地震)、潮岬沖から浜名湖付近沖(東南海地震)の南海トラフ沿いを震源域として、21世紀前半に起こると予想される巨大地震である。地震の規模はマグニチュード8.6、最大震度は6強以上と予想され、被害は西日本のほぼ全域(南海地震)あるいは中京～近畿圏(東南海地震)に及ぶおそれがある。東南海地震と南海地震は同時に発生する可能性が懸念されており、両地震が同時に発生した場合、国の中央防災会議では、

最悪の場合で死者約20,500人、重傷者約20,900人、全壊建物は約615,900棟と東海地震を上回る被害を想定している。また、経済的な損失も最悪の場合約56兆円と、こちらも東海地震を上回る被害が想定されている。今後30年のうちに発生する確率は40～50%とされている。

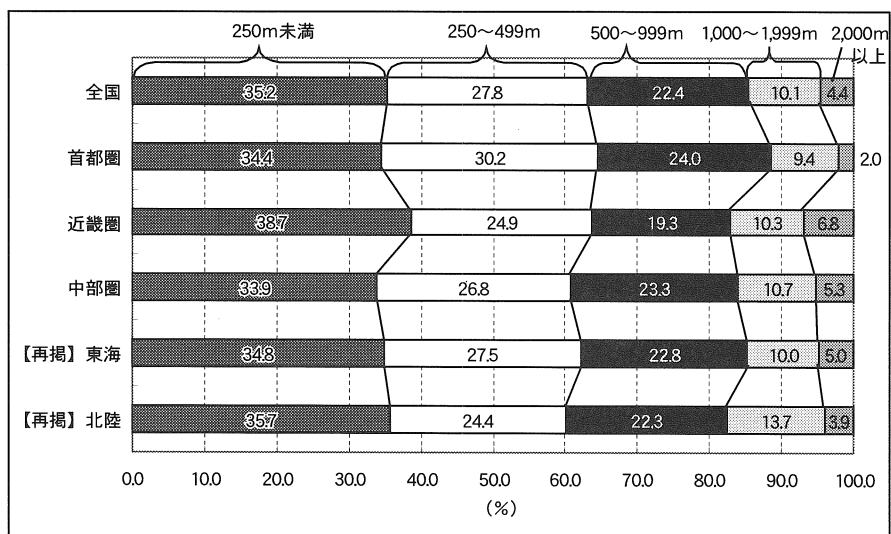
資料) 中央防災会議資料、防災システム研究所ホームページ、集英社「imidas2003」より作成

まず、防災についてみると、中部圏では最寄りの緊急避難場所まで250m未満と最も近い区分の住宅の割合が低い。一方、緊急避難場所から2,000m以上離れた住宅の割合が高く、中部圏では緊急避難場所から離れた住宅が比較的多いことがわかった【グラフ5参照】。

また、医療についてみると、中部圏は最寄りの医療機関まで250m未満と最も近い区分の住宅の割合が低く、1,000m以上離れた住宅の割合が高い【グラフ6参照】。さらに、一人あたりの医療施設数をみても、中部圏では一般病院・一般診療所・歯科診療所のいずれも全国平均を下回っており、三大都市圏のなかでも高いとはいえない状況にある【表12参照】。

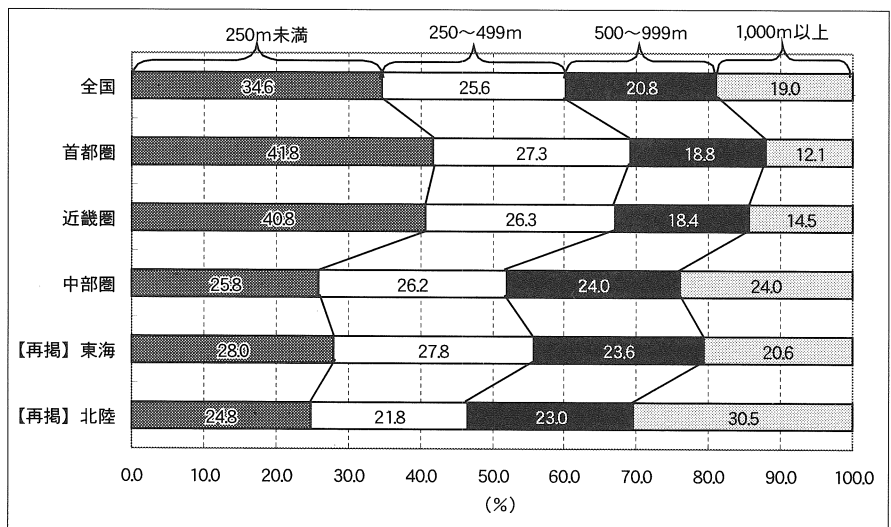
中部圏は、東海地震や東南海・南海地震などの大規模な災害の発生が危惧されており、その想定される被害の規模は甚大であるにもかかわらず、緊急避難場所や最寄りの医療機

グラフ5 最寄りの緊急避難場所までの距離別の住宅割合（1998年）



資料) 総務省統計局「住宅・土地統計調査」

グラフ6 最寄りの医療機関までの距離別住宅割合（1998年）



資料) 総務省統計局「住宅・土地統計調査」

関から離れた住宅が多く、1人あたりの医療施設数も少ない。緊急時に備えた何らかの整備が必要といえよう。

一方、福祉対策はどうか。まず、1人あたりの福祉関連施設数をみると、中部圏は三大都市圏のなかではそれなりに充実しているといえる。しかし、近年増加しつつある在宅介護の重要な要素の一つである訪問介護員（ホームヘルパー）数は、三大都市圏のなかで最も低い【表13参照】。

また、バリアフリー化について、鉄道の駅などでのバリアフリー化の状況をみると、中部圏では、高齢者や身体障害者などが駅を利用する際に単独で利用が可能な駅の割合が全体の3分の1にとどまっている状況にある。一方、段差が残っており介助が必要となる駅の割合は高く、中部圏の過半数の駅はバリアフリー化が進んでいない状況にあることがわかった【グラフ7参照】。

今後、一層高齢化が進むなかで、中部圏が

表12 1人あたりの医療関連統計（全国平均を100としたとき）

項目	全国	首都圏	近畿圏	中部圏		
				東海(再掲)	北陸(再掲)	
一般病院数(2001年)	100.0	75.1	93.3	83.3	72.1	141.7
一般診療所数(2001年)	100.0	95.9	112.8	90.0	90.0	93.1
歯科診療所数(2001年)	100.0	113.8	100.5	87.0	91.0	73.9

資料) 厚生労働省「医療施設調査・病院報告」

表13 1人あたり^{注10}の福祉関連統計（全国平均を100としたとき）

項目	全国	首都圏	近畿圏	中部圏		
				東海(再掲)	北陸(再掲)	
老人ホーム数(2000年)	100.0	79.9	100.2	84.9	80.0	93.4
老人福祉センター数(2000年)	100.0	91.8	94.5	122.3	102.1	141.8
老人憩の家数(2000年)	100.0	62.6	162.0	122.9	83.7	70.5
訪問介護員(ホームヘルパー)数(1999年)	100.0	114.1	124.2	77.2	71.8	95.1

資料) 厚生労働省「社会福祉施設等調査報告」

暮らしやすい地域になるためには、バリアフリー化の推進など高齢者等に優しいまちづくり、地域づくりが欠かせない。

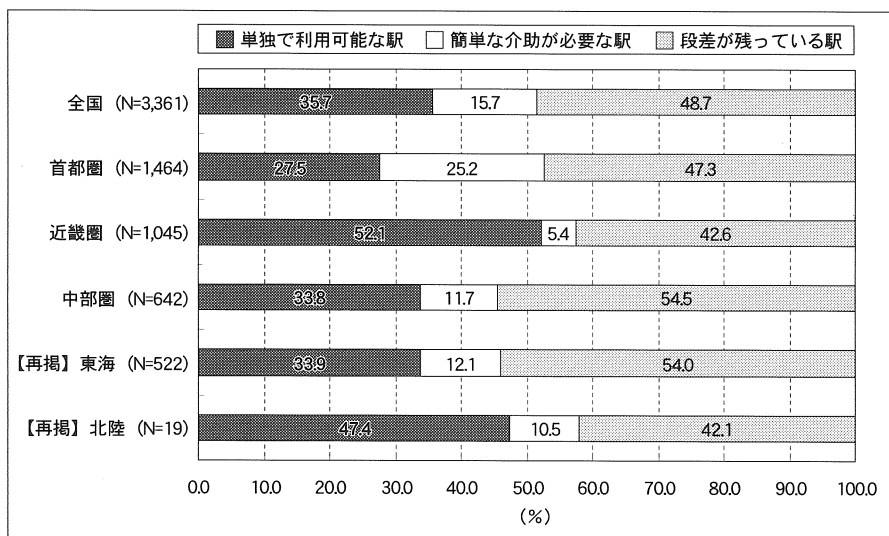
おわりに

人の感覚とは恐ろしいもので、客観的な指標では明らかに劣っているにもかかわらず、満足度は意外にも高かったりする。逆に優れていても高く評価されないこともある。“住めば都”とはよくいったものだ、というのが調査を終えての実感である。

中部圏は、まさに後者が当てはまる地域ではなかろうか。この地域は、「安・近・広+日当たり良好」という快適な住環境が実現しているとともに、家計の純貯蓄額が高いなど経済的にも豊かな地域である。まさに、ゆとりと豊かさを兼ね備えた地域であり、わが国のなかでも指折りの暮らしやすい地域であろう。

ところが、将来暮らしてみたい地域として中部圏はそれほど人気がない。暮らしてみたいと思わせるような魅力、例えば沖縄や北海道のような優れた観光地・リゾートの魅力

グラフ7 鉄軌道駅におけるバリアフリー化の現状^{注11} (2002年)



資料) 国土交通省ホームページより中部開発センターが作成

注10: 老人ホーム数、老人福祉センター数、老人憩の家数については、65歳以上人口1人あたりで算定。

注11: 1日当たりの平均的な利用者数が5,000人以上の鉄軌道駅を中心に全国3,361駅のバリアフリー化の状況を示したものの。

や、東京や神奈川のような都会の魅力、といった人を惹きつけるようなイメージが中部圏には乏しいからだ。暮らしやすい地域であるにもかかわらず、中部圏はイメージで損をしているといえよう。また、防災や医療、福祉といった暮らしの安全・安心に係わる要素について、アンケート調査では対策の充実を求める声が強かった。実態をみても、この地域には緊急避難場所や最寄りの医療機関から離れた住宅が多いことやバリアフリー化の遅れがみられ、課題も多い。

中部圏での暮らしは、ゆとりと豊かさという意味合いでは充分合格点といえる。しかし、この地域に人を惹きつけるような魅力や安全・安心といった要素が物足りないのも事実である。これらの要素をさらに高めていくことで、中部圏はより魅力的な圏域へと変貌を遂げるであろう。